

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2024年 5月 17日

(宛先)
滋賀県知事

提出者
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
滋賀県彦根市楡町370番地
氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
アルテミラ株式会社彦根工場
工場長 菅原光世
第25条第3項 → 第25条第4項
第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第4項 の規定に基づき、
事業者行動計画を 策定 (変更)
事業者行動報告書を作成
したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	アルテミラ株式会社 代表取締役社長 中塚晃章
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル

1 事業者の概要

事業所の名称	アルテミラ株式会社 彦根工場					
事業所の所在地	滋賀県彦根市楡町370番地					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	2	4	1	1	ブリキ缶・その他のめっき板等製品製造業
事業の概要	飲料用アルミ缶の製造					
従業員の数	118	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	☒	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者				
	☐	従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者				
	☐	任意提出事業者				
主要な設備	ボイラ	9	台	熱源設備	-	台
	コンプレッサ	6	台	空気調和設備	129	台
				照明設備	651	台
				その他	7.5kw以上の電動機	288台

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	令和3	年度	報告対象年度	令和5	年度
	終了年度	令和5	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

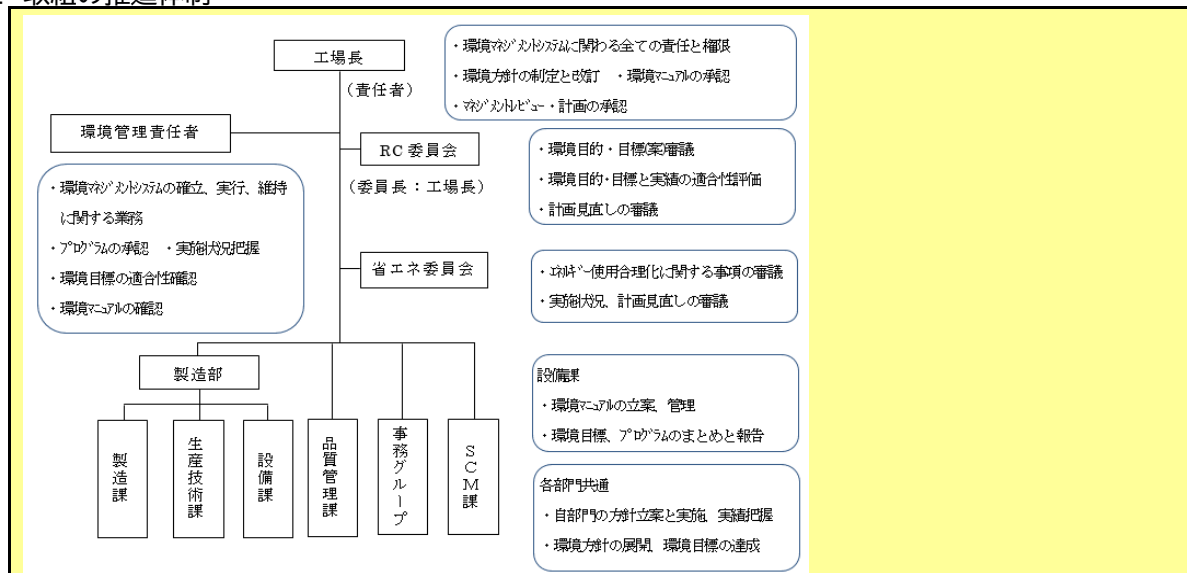
計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

・添付の「アルテミラ株式会社彦根工場 環境方針」を参照。

2 取組の推進体制

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

平成30年～令和2年の取組み状況

- ・コンプレッサー3台を高効率タイプに更新、計画完了。
- ・受変電設備、変圧器2台をアモルファス変圧器に更新。計画完了。
- ・照明設備のLED化、水銀灯48灯と蛍光灯845灯を更新。
- ・乾燥炉3基の炉壁の断熱増強。
- ・乾燥炉1基を高効率タイプに更新し使用電力量、ガス量を削減。
- ・高効率モーターへ更新、57台実施。
- ・直流モーター1台を交流モーター化しインバーター制御により省エネ化を図った。
- ・吸収式冷温水機の省エネ制御導入、インバーター制御により電力の削減。

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	プレス機械の直流モーターを交流モーターインバーター化により消費電力を削減する。	令和3年～令和5年	中止、計画見直し。
2	設備導入	工場照明をLED照明に更新する。	令和3年～令和5年	水銀灯129灯、蛍光灯613灯を更新。
3	運用改善	エアー漏れ箇所のチェックと復元で消費ロスを削減する。	令和3年～令和5年	都度対応
4	運用改善	蒸気漏れ、排熱漏れのチェックを行いエネルギーロス、放熱ロスを削減する。	令和3年～令和5年	都度対応
5	運用改善	設備の適正な運転管理を行いロスを削減する。	令和3年～令和5年	適正管理継続

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
令和2年度を基準年度として、 原単位「温室効果ガス排出量／生産数」で毎年1%削減を目標とする。 【原単位の考え方】 温室効果ガス排出量は製品の生産量に大きく左右されるため、生産量を原単位の指標として設定しました。なお、計画期間中の各年度の温室効果ガス排出量算出に当たっては、実績と目標の対比を適切に評価するために、基準年度の係数に固定して算定します。	令和2年度の18,691t-CO₂に対し令和5年度は19,904t-CO₂と5.8%増加した。 対令和2年度で良品率、稼働率の上昇など生産性が向上したことと省エネルギーの取組でガス使用量、電気使用量共削減できた。加えて原油換算係数も低くなったことでエネルギー原単位は9.8%改善したがCO₂排出係数が増加したことでCO₂排出量は増加した。

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度前年度の実績	実績報告				
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	12,197	11,288	11,172	10,178		
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	18,691	17,997	16,027	19,904		
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	18,691	17,997	16,027	19,904		
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂						
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移		9.861	9.517	9.524	8.589		

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施 スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh						
上記のうち自家消費量	kWh						

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂						
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂						
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh						
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
グリーン証書の購 入	t-CO ₂						
クレジットの購入	t-CO ₂						
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1				
2				
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

		計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
保有車輛の数	台						
上記のうち 次世代自動車の数	台						
特記事項							

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	3R	廃棄物の分別、再利用化を推進して再資源化率95%以上、ゼロエミッション0.5%以下を維持する。	令和3年～ 令和5年	再資源化率94.8% ゼロエミッション0.42%
2	その他	需要地生産により、遠隔地輸送を削減する。	令和3年～ 令和5年	都度調整。
3	その他	生産性の向上、歩留まり改善で生産に対して必要なエネルギーを低減する。	令和3年～ 令和5年	対前年で良品率 0.05%DOWN
4	3R	アルミ缶回収 従業員の全員参加で、各自が独自に回収したアルミ缶を 工場ですべてリサイクル資源とする。	令和3年～ 令和5年	100%参加。 67缶/人・月を回収。
5				